

『人・農地プラン』の策定に向けて 説明会を終えて…。

市では、農業についての将来計画『人・農地プラン』を策定するため、8月16日から24日まで各集落ごとに12カ所で説明会を行いました(8月号広報参照)。その中で全市を20地域に分けて策定に取り組むことが決定しました。

20地区で取り組む

各集落の農業者や経営面積などの情報を基に、住所地だけの結びつきではなく、昔からの集落の結びつきや営農体系を参考に、香南市では「人・農地プラン」を20地域で取り組んでいくことを決定しました。

ただ、当初から地域全体での取り組みは難しいため、田役や祭事といった集落での集まりや隣近所での取り組みなど、小さいところから、今後につなげていくことが必要です。



今後の人・農地プラン

「人・農地プラン」は、耕作放棄地の増加や、担い手不足といった問題を、地区に合わせて取り組むことで、農地を維持し、農業の振興につなげていくためのものです。現在プランには、承諾を得た農業者の栽培品目や面積など、現状と5年後の計画、規模拡大・縮小といった取り組み内容や時期などが記載されています。自分たちの地区にはどんな農業者がいるのか、今耕作されている農地はこれからのようになるのか、この地区の課題は何なのかという情報を共有し、取り組みにつなげるためにも、農業者一人ひとりの経営の現状と未来への計画を集約していくことが、「人・農地プラン」のスタートとなります。

経営状況(氏名)	経営者・代表者の年齢	後継者の有無	戸別所得補償制度の加入者	現状(平成23年度)		計画(平成28年度)		新規就農・6次産業化・高付加価値化・複合化・低コスト化・法人化等の取組
				経営内容(作物)	経営規模(ha、頭数等)	経営内容(作物)	経営規模(ha、頭数等)	
西村 宗太	58	有	加入	施設ナス 水稲	0.3 0.8	施設ナス 水稲	0.6 0	既存の優良品種を特産品から特産品として販出する
岡田 以家	40	有	非加入	施設ピーマン	0.3	施設ピーマン	0.6	施設内での生産性を向上させる
高木 雄	55	有	加入	水稲 露地野菜	5.0 1.0	水稲 露地野菜	7.0 1.2	施設内の規模拡大と加工品への販出
橋本 大一郎	35	有	加入	施設ナス 水稲	0.4 0.5	施設ナス 水稲	0.4 0.5	販出先拡大のハウスを新築する
(株) 安部村から4部 安部太郎 部長 上田誠	28	有	加入	施設トマト トマト加工	1.5	施設トマト トマト加工	1.5	加工事業の拡大を図り、新たな販路の拡大を図る
小原 健二	54	有	未加入	施設ナス 施設花き(ブルースター)	0.4 0.5	施設ナス 施設花き(ブルースター)	0.3 0.6	施設から観光、施設花きへの販出を図る
北村 康太郎	33	有	加入	露地ショウガ 水稲	1.5 1.0	露地ショウガ 水稲	2.0 1.0	露地ショウガの産地拡大と販出先拡大を図る
(株) 高木しんすけ (株) 高木 ユズ	45	有	未加入	ユズ ユズ作業委託	2.0 0	ユズ ユズ作業委託	2.0 0.3	施設から観光、施設花きへの販出を図る
藤井 利子	41	有	未加入	施設ナス	0	施設ナス	0.3	施設の一部を観光施設として活用する
田村 雅典	40	有	未加入	施設ピーマン	0.1	施設ピーマン	0.3	ピーマンの産地拡大を図り、販出先拡大を図る

▲人・農地プラン情報記載例

「人・農地プラン」は掲載されている農業者の情報が多く、効果は大きくあります。しかし、現在のところ農業者の7%程度の情報しか集まっていない状況です。認定農業者や新規就農者など、今後も計画を持って農業経営をされる方はぜひプラン掲載にご協力をお願いします。また、今後農地を貸していきたいという情報も必要です。策定されたプランは、基本的には同じ地区の農業者でなければ閲覧できないように管理していきます。地域の農業者を地域の皆さんで応援していくためにも、多くの情報提供をお願いします。

身近な集まりで「もっと人・農地プラン」について詳しく聞きたい!!、「もっと集落で話したい!!」という場合は、ぜひ農林課まで声をかけてください。



より多くの情報を!

鳥獣被害の現状は

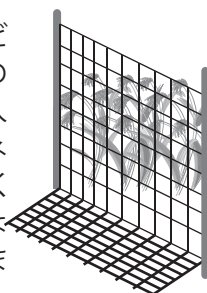
市内では香我美町や夜須町の山間地域を中心にイノシシやシカなどの野生動物による農作物への被害が増加の傾向にあり、また平野部でもカラスなどによる被害が報告されています。

また継続的に被害を被る地域もあり、対策が急務な状況のため、市でも従来より牧柵の設置に補助制度を設ける(9月号広報参照)などとして、対策を講じています。

設置場所を視察して

鳥獣被害の状況を把握するため、担当課と関係者で市内山間部の柵を設置している地域の視察を行いました。柵を設置することで被害が減少した地域もありましたが、柵の設置方法が誤っているため、突破され、被害を被っている場所が数カ所見受けられました。その中で確認していただいたポイントを紹介いたします。

鳥獣被害に立ち向かう 柵の正しい設置方法



注 ネット柵

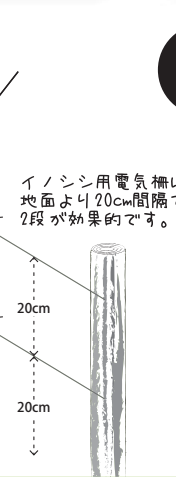
折り返し50cmが侵入不能のキーポイント

イノシシやシカなどは、柵を跳び越えるのではなく、下から侵入しようとしてきます。ネットの折り返しを長くして、地際をくぐれないような工夫をしましょう。

注 テグスの利用

安価で簡単!個人の家庭菜園などでも効果大!!

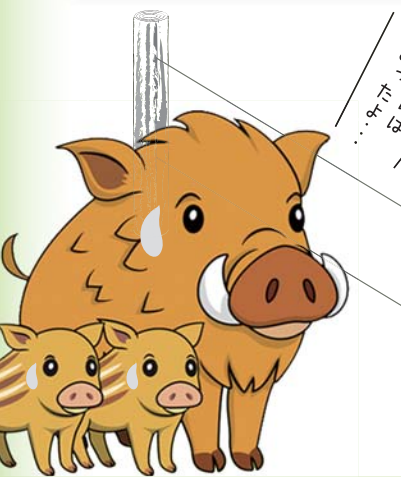
主に空からの鳥類被害対策に用いられます。きれいに張るのではなく、無造作に張り巡らすことで効果がより大きくなります。



注 電気柵

支柱を壊されないためにもアルミ線を前へ!

電気を通してアルミ線が支柱の内側になっていると、支柱を倒されて侵入されます。アルミ線を外側にし、支柱には動物が触れないようにしましょう。



鳥獣被害対策専門員 門脇二三夫 氏

今年5月より、J A土佐香美管内に鳥獣被害対策専門員として配属されています。各地域の実態を把握して、場所にあった対策をアドバイスできるよう努めます。香南市内もよく巡回していますので気軽にお問い合わせください。



効果的な被害の軽減を目指して

被害対策を効果的に行うためには、まず環境を「整える(環境整備)」ことです。収穫しないままの農作物を除去し、鳥獣の隠れ家となっている耕作放棄地を整備しましょう。そして紹介した柵やネットを正しく設置し大切な農作物を「守る(防除)」こと、それでもやって来るしつこい鳥獣は狩猟免許を取って駆除、または市を通じて駆除員に依頼し「捕る(捕獲)」ことが必要です。これらの取り組みを協力して行い、被害を軽減しましょう。